

(2) 市内バス路線のサービス水準

Sバスのサービス水準は以下のとおりである。

1日当たり上下で最大16便の路線もあれば、4便しかない路線もあり、サービスレベルに差がみられる。

図表 Sバスのサービス概要

路線名	運行日	便数(上下計)	上り始発/下り終発 時刻
Sバス西部線	月~金	10便	7:35/16:00
Sバス北部線	月~金	10便	7:40/冬 16:33・夏 16:59
Sバス中宇利線	月~金	8便	7:51/17:06
Sバス吉川市川線	月~金	8便	7:48/冬 16:00・夏 17:05
Sバス作手線	毎日	平日 14便 土休日 9便	平日 6:15/19:28 土休日 7:00/17:23
Sバス秋葉七滝線	月~土	16便	6:28/月~金 17:50・土 16:21
Sバス長篠山吉田線	月~土	12便	6:16/17:50
Sバス布里田峯線	月~土	月~木 10便 金 8便 土 3便	月~金 6:06/18:13 土 6:06/16:10
Sバス塩瀬線	月~土	月~金 11便 土 3便	月~金 5:56/18:29 土 5:56/16:26
Sバス守義線	月~土	4~10月 10便 11~3月 9便	4~10月 7:20/18:10 11~3月 7:20/16:29
Sバスつくであしがる線	月~土	4便	月(田原・黒瀬・木和田・岩波・鴨ヶ谷)7:35/16:15 火(田原・中河内・長ノ山)7:35/16:15 水土(市場・戸津呂・小林・大和田)7:30/15:45 木(須山・市場・戸津呂・和田)7:30/16:15 金(市場・相寺・戸津呂・赤羽根・田代)7:40/15:45

※お盆や年末年始は運休になる場合あり

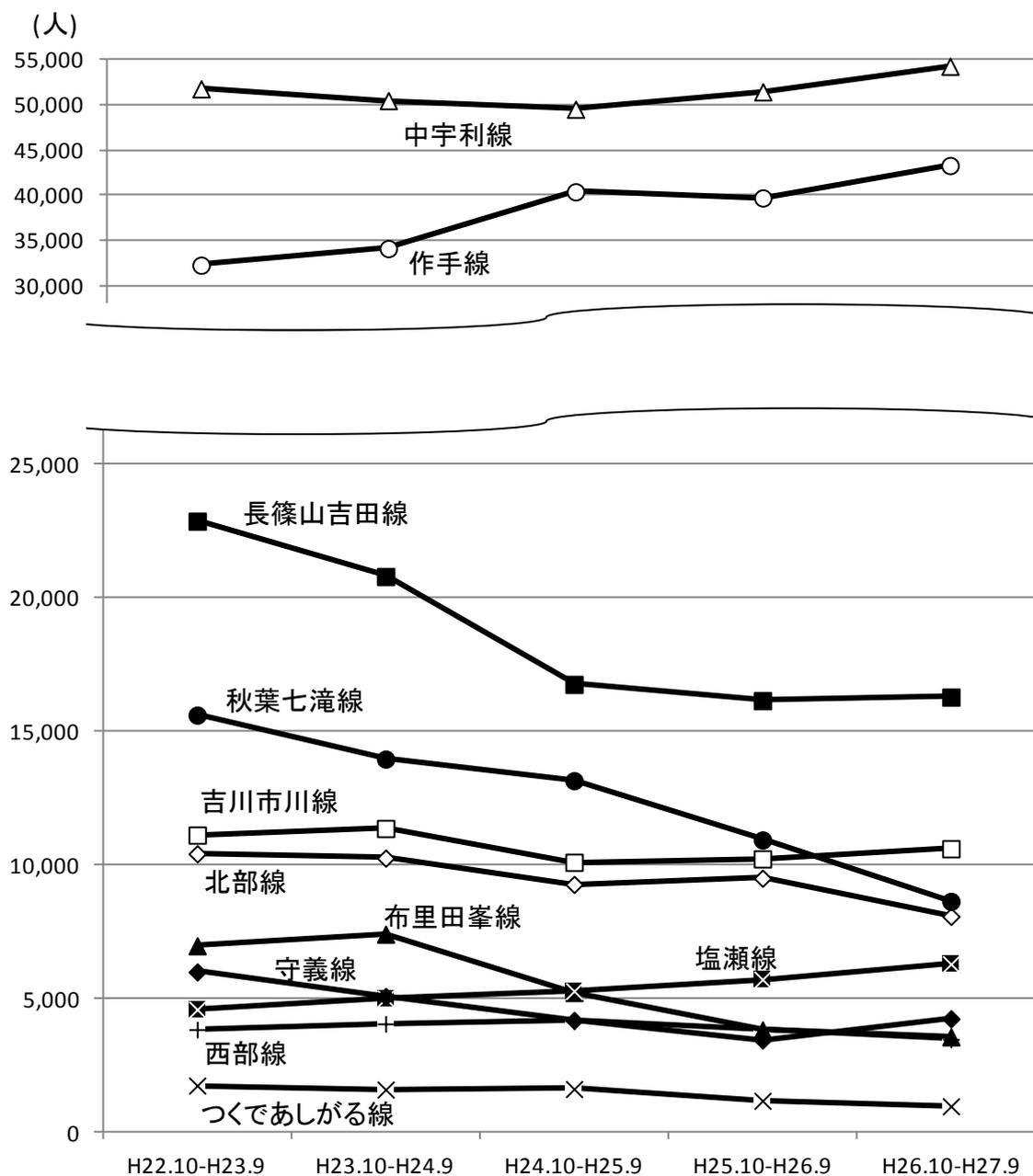
※登校日のみ運行される便あり

(3) バス事業の実態の整理

① Sバス全体の利用者数推移

路線別に利用者数をみると、西部線、中宇利線、吉川市川線、作手線、塩瀬線は増加から横ばい傾向にあるが、北部線、秋葉七滝線、長篠山吉田線、布里田峯線、守義線、つくであしがる線は減少傾向にある。

図表 路線別の利用者数推移



② スクールバスの利用状況

当市においては、豊鉄バス・Sバスともにスクールバスとしての役割があるため、小中学生による利用が一定程度存在し、売上の一部も定期券売上が担っている。

そのため、利用者数や売上を見る際は、一般利用と小中学生利用とで分けることが必要であり、ここではまずスクールバスの利用状況を整理する。

図表 通学定期購入状況(平成 26 年度)

学校名	該当路線		通学定期費用		
			人員	半年分	年間
千郷小学校	豊鉄バス	新豊線	185	3,784,360	7,660,630
東郷東小学校	Sバス	北部線	11	178,200	356,400
舟着小学校	Sバス	吉川市川線	21	340,200	680,400
八名小学校	Sバス	中宇利線	105	1,701,000	3,402,000
鳳来中部小学校	Sバス	長篠山吉田線	3	48,600	97,200
鳳来寺小学校	豊鉄バス	本長篠海老線／田口新城線	14	262,290	531,180
鳳来西小学校	Sバス	塩瀬線	13	210,600	421,200
東陽小学校	Sバス	秋葉七滝線	16	259,200	502,200
鳳来中学校	Sバス	長篠山吉田線	33	1,069,200	2,138,400
	Sバス	秋葉七滝線	3	97,200	194,400
	Sバス	布里田峯線	9	291,600	583,200
	Sバス	塩瀬線	1	0	0
	豊鉄バス	本長篠海老線／田口新城線	33	2,907,380	5,897,850
作手中学校	Sバス	守義線	6	194,400	362,400

※Sバスは6か月分で 32,400 円（小学生は半額 16,200 円）

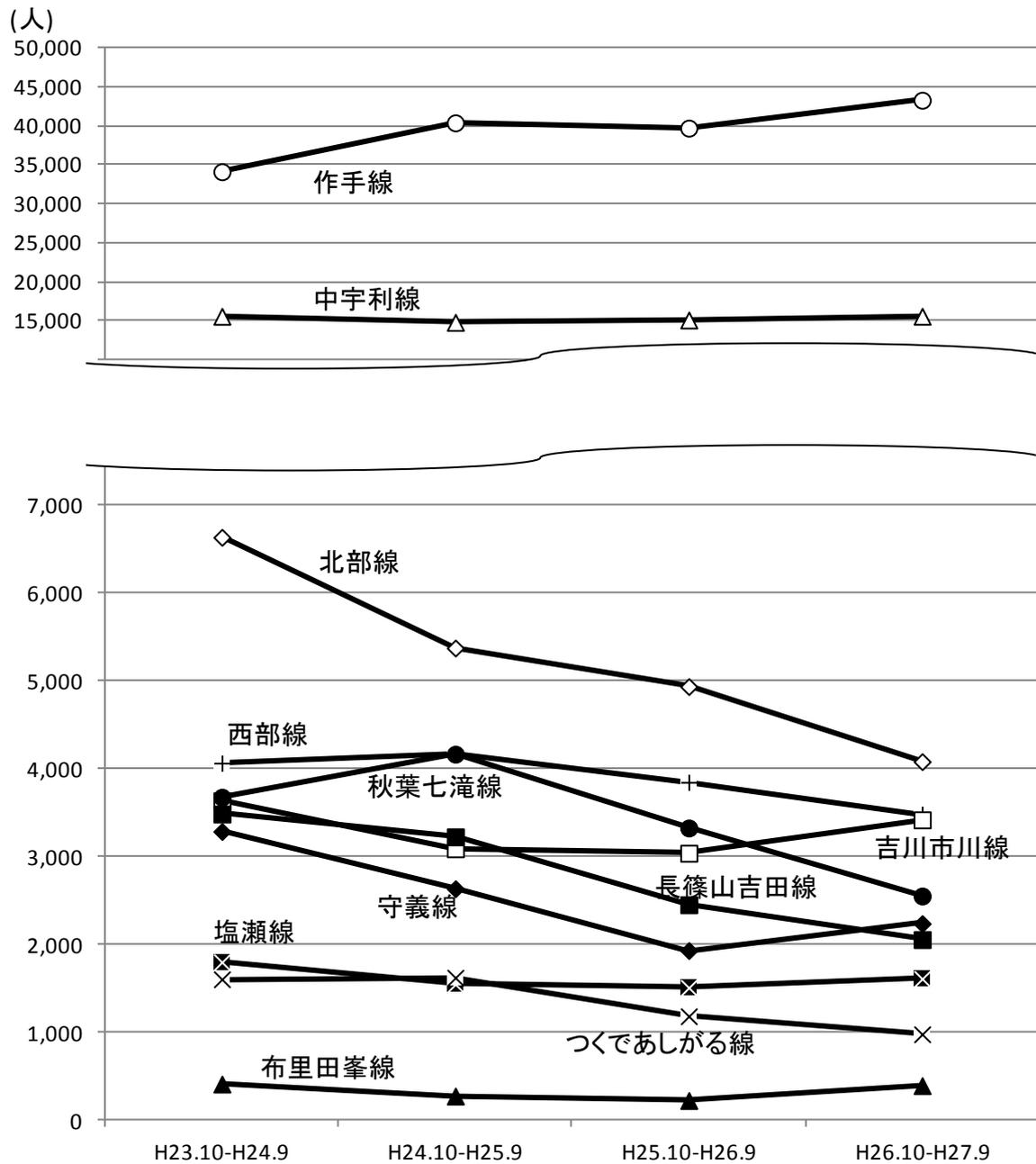
※豊鉄バスは、距離制運賃

※鳳来中の塩瀬線利用者は、布里田峯線を乗り継ぎ利用のため 0 円。

③ Sバスの実利用者数推移(推計)

利用者からスクールバス利用者数(推計)を引いた「実利用者数」でみると、中宇利線、吉川市川線、作手線、布里田峯線、塩瀬線は増加から横ばい傾向にあるが、西部線、北部線、秋葉七滝線、長篠山吉田線、守義線、つくであしがる線は減少傾向にある。

図表 路線別の実利用者数推移



(4) バス事業の実態の整理

「利用者数」「経費」「収入」に対して、さらに「スクールバス利用者数」「スクールバス定期券収入」などの数値を活用し、スクールバス以外の実際の住民の利用を「実利用者数」として推計した。

さらに、路線ごとの収支状況や費用対効果を比較するために、「1人当たり輸送コスト」「収支率」の2つの指標を用い、それぞれ実利用者・実収入を用いて、小中学生を除く一般利用の状況の確認を行った。

これによると、全体の利用者数 160,000 人のうち、約半分である 80,000 人が実利用者であるため、スクールバス利用と一般利用は概ね 1 : 1 である。これは収入状況とも一致しており、19 百万円の収入のうち、実収入が約半分となり、やはり 1 : 1 である。

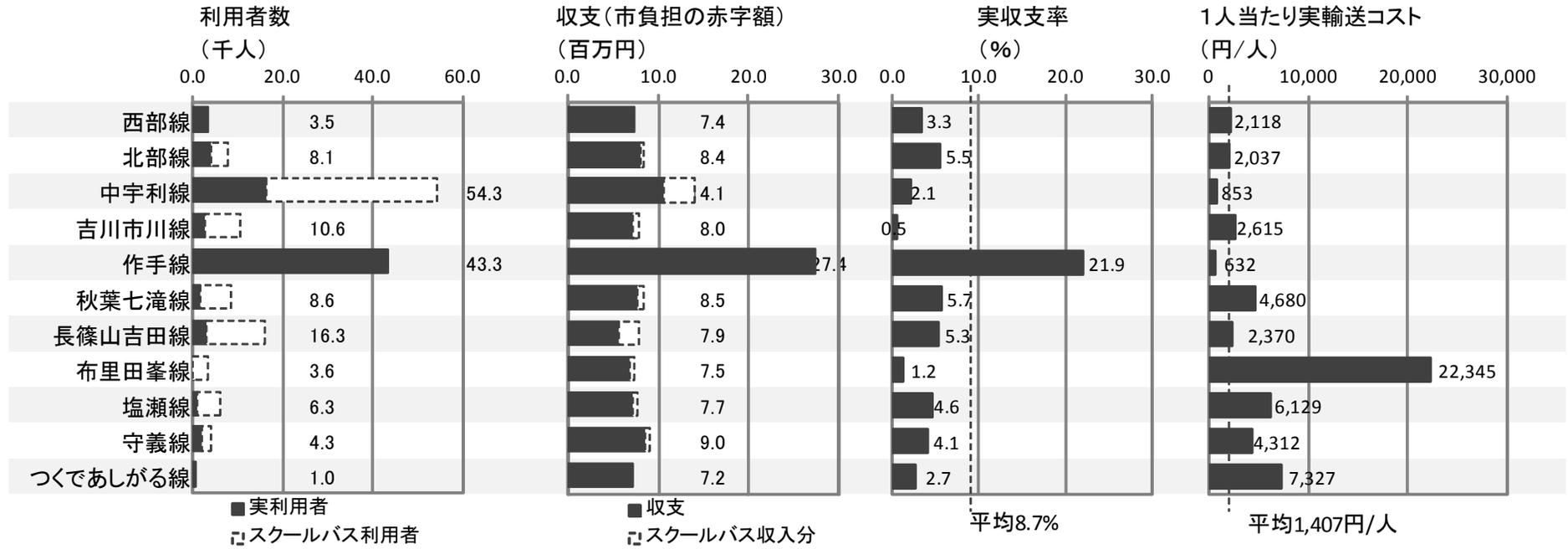
収入を経費で除した「収支率」をみると、全体の収支率は 15.6%だが実収支率では 10%を下回り、事業性は決して良くない。作手線は 20%を超えて高くなっているが、その他路線は全て 6%以下となっている。

全体的に、利用者数の割に売上が低い傾向がある。

図表 路線別のバス経営状況

	経費 (千円) A	利用者数 (人) B	実利用者数 (人) B'	収入 (千円) C	実収入 (千円) C'	収支 (市負担 千円) A-C	実収支 (市負担 千円) A-C'	収支率 (%) C/A	実収支率 (%) C'/A	1人当たり 輸送コスト (円/人) (A-C)/B	1人当たり 実輸送コスト (円/人) (A-C')/B'
西部線	7,625	3,480	3,480	255	255	7,370	7,370	3.3	3.3	2,118	2,118
北部線	8,881	8,082	4,122	843	486	8,038	8,395	9.5	5.5	995	2,037
中宇利線	14,366	54,297	16,497	3,700	298	10,666	14,068	25.8	2.1	196	853
吉川市川線	8,032	10,617	3,057	719	38	7,313	7,994	8.9	0.5	689	2,615
作手線	35,085	43,326	43,326	7,688	7,688	27,397	27,397	21.9	21.9	632	632
秋葉七滝線	8,967	8,646	1,806	1,212	516	7,755	8,452	13.5	5.7	897	4,680
長篠山吉田線	8,332	16,290	3,330	2,676	440	5,656	7,892	32.1	5.3	347	2,370
布里田峯線	7,575	3,575	335	673	90	6,902	7,486	8.9	1.2	1,931	22,345
塩瀬線	8,081	6,298	1,258	792	370	7,289	7,710	9.8	4.6	1,157	6,129
守義線	9,402	4,252	2,092	744	381	8,659	9,021	7.9	4.1	2,036	4,312
つくであしがる線	7,350	976	976	200	200	7,151	7,151	2.7	2.7	7,327	7,327
総計・平均	123,697	159,839	80,279	19,500	10,762	104,197	112,935	15.8	8.7	652	1,407

図表 路線別のバス経営状況



(5) まとめ

路線別にみると、作手線は、市負担は大きいが一般利用者は増加して収支率も好調となっている。

一方、布里田峯線やつくであしがる線は、市負担の割には一般利用者数が少なく、更に減少傾向となっており、実収支率や1人当たり実輸送コストが悪い値を示している。

図表 路線別の評価

	一般利用	収支 (市負担の状況)	実収支率	1人当たり 輸送コスト
西部線	減少傾向	普通	悪	普通
北部線	減少傾向	普通	やや悪	普通
中宇利線	横ばい	普通	悪	良
吉川市川線	横ばい	普通	悪	普通
作手線	増加傾向	高額	良	良
秋葉七滝線	減少傾向	普通	やや悪	やや悪
長篠山吉田線	減少傾向	普通	やや悪	普通
布里田峯線	横ばい	普通	悪	悪
塩瀬線	横ばい	普通	悪	悪
守義線	減少傾向	普通	悪	やや悪
つくであしがる線	減少傾向	普通	悪	悪